

## 令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

（令和6年12月25日（水）10時00分～12時00分）

（滝沢市市役所2階大会議室）

### （進行）事務局

ただいまから第2回の総合計画審議会を開会いたします。

本日の出席委員は21人中15人であり、過半数を満たしております。よって滝沢市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により会議が成立することを御報告いたします。

まずは、本日の総合計画審議会の開催までに委員の辞職がございましたので、この場で御報告をさせていただきます。

総合計画審議会の委員を委嘱しておりました及川様より辞職の届け出がございましたことから、後任として体育協会会長 熊谷雅英 様に総合計画審議会委員を委嘱するものでございます。

なお、任期につきましては、滝沢市総合計画審議会条例第3条第3項の3により、前任である及川様の任期を引き継ぐこととなります。

それでは、委嘱状交付を滝沢市長武田哲より行います。熊谷様、前へお進みください。

～（市長から委嘱状を交付）～

### （進行）事務局

それでは審議会の開会にあたりまして、滝沢市長武田哲より御挨拶を申し上げます。

### （挨拶）市長

本日は、年末のお忙しいところ、このように御出席を賜りまして誠にありがとうございます。そして、ただいま委嘱をいたしました熊谷様におかれましては、今後様々な見地から御意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今回は第2回目の総合計画審議会となります。

1つ目の議題として令和5年度市長方針評価及び各部の方針評価について、2つ目の議題として次期地方創生総合戦略の策定について。この2つの議題を本日は御審議をいただきます。

1つ目の議事、「令和5年度市長方針評価及び各部の方針評価について」は、令和5年度滝沢市の市政運営が市長方針に基づいて運営がなされたかどうかという部分をぜひ見ていただければと思っております。

そして、2つ目の議事、「次期地方創生総合戦略の策定について」は、市の将来人口予測について触れていますが、やはり人口減少というところは避けて通れない部分だというふうには思っています。

しかし、滝沢市に所在する岩手県立大学、盛岡大学、盛岡北高校、盛岡農業高校などの若い力を今後どう生かしていくかということが市の評価につながっていると思っています。

滝沢市が今後どう動くのか、どういった価値を作っていくのかという点を考えながら、

## 令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

市政運営にも取り組んでまいりたいと思っておりますので、本日はいろいろな御意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### （進行）事務局

ありがとうございました。次に委員の紹介でございます。本日参加されております委員の皆様のお紹介につきましては、時間の都合上、お手元の名簿による御紹介とさせていただきます。御容赦願います。

また、市側の出席者につきましても、武田市長、岡田副市長、太田教育長以下、名簿の通りの出席となっております。

それでは改めまして、本日の議事等について説明させていただきます。

議事1として、「令和5年度市長方針評価及び各部の方針評価について」、議事2として、「次期地方創生総合戦略の策定について」と、順次進めさせていただきたいと思っております。

それでは、早速議事に入らせていただきたいと思います。ここからの進行については、総合計画審議会会長の丸山仁様をお願いしたいと思います。

### （進行）会長

それでは、本日もどうかよろしくお願いいたします。では、早速議事に入りたいと思っております。

議事1、「令和5年度市長方針評価及び各部の方針評価について」、事務局から説明をお願いします。

### （説明）企画政策課長

議事1の「令和5年度市長方針評価及び各部の方針評価について」は、事前送付した資料のとおりであります。内容については事前に確認いただいておりますので、説明は割愛させていただき、委員の皆様より御意見等あれば頂戴したいと考えております。

### （進行）会長

以前の審議会では委員の方から説明に時間を割くよりも、議論に注力したいという意見があったことから、説明については省略をするということです。

本日は市長、それから各部の部長さんが揃っていますので、資料1の「令和5年度市長方針評価及び各部の方針評価について」、どの点からでも結構ですので、御質問、御意見のある委員の方は御発言をお願いします。

### （意見）委員

この資料に関してということではないが、全体的に見ると市は様々な方向から市政の評価を行っていると思っている。その評価はせいぜい横並びか、少しは進んでいるというような評価が多いと感じるが、私としては、評価が正しく行われているかということそうでは

ないと感じる。市の評価よりも進んでいない部分もあるのではないかと思います。

**（進行）会長**

市長方針の評価の部分については、「進展している」、もしくは「一定程度進展している」という評価になっていますが、実態としてどうなのかということですね。

むしろ、もう少し厳しく評価をする、あるいは問題のあるところについてしっかりと受け止めることが大事なのではという趣旨として拝聴いたしました。こちらについては、市長の回答でよろしいでしょうか。

**（回答）市長**

はい、私が1番感じていることは、コロナ禍が終わったことで、少しずつ人と人とが会う環境ができてきていて、活気が出てきていたりするということです。

しかし、各自治体や各地域を見ると、やはりまだ人と会うことに対して抵抗感がある方がいるということを実感します。

あわせて、自治会の役員のみならず、そして各種委員のみならず、そういった方々も不足しているというのはすごく感じているところであります。

では、どこにどう注力するか、どうやっていくかについて各部あるいは各課に話をしているところです。

まずは、自治会の各種行事にも一生懸命参加などしながら、市民の皆さんからいただいた御意見にしっかりと耳を傾け、頂いた意見を関係部課にしっかりとつなぎたいと思います。そしてその問題に、どういった対応をしていけばいいか、何ができるか、ということを慎重に考えていきたいと思っています。

市長になって2年目にはなりますが、1年目で感じた地域の皆さんあるいは自治会の皆さんの意見に少しでも対応できるように、これからもしっかりと対応してまいりたいと考えています。

**（進行）会長**

はい。それでは、他に御質問、御意見ある方は御発言をお願いします。

**（意見）委員**

1点目は令和5年度市長方針及び各部の方針評価の内容を読ませていただいて、第1次総合計画と第2次総合計画の間の空白期間をつなぐ役割を果たすものになっていると感じました。

この評価はすでにホームページ上に掲載されていたと思いますが、この掲載は、どなたに向けての掲載だったのか。

またホームページには各課の評価も掲載されているが、今回の資料には入っていない。各課の評価についても委員に共有すれば、もう少し細かい部分の意見もでると思うのだがそのあたりはどうか伺いたい。

## 令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

2点目は資料1の2ページ目のイ部分ですが最後まとめのところ、「誰もが自分らしく、健康で健やかに暮らせる街の実現を目指すこととしました。」というまとめがありますがこのまとめでいいのでしょうか？

その他の部分のまとめはじっくりきますが、ここだけこの文面がふさわしいかどうか疑問に思います。

### （進行）会長

はい、各課の評価についても共有したほうが議論の材料になるのではという御指摘と市長方針評価の「イ」のまとめはこれでいいのかという内容でしたが、事務局回答をお願いします。

### （回答）事務局

はい。総合計画担当からただいまの御質問に御回答を申し上げます。

1点目のホームページへの市長方針評価の掲載については、規則で毎年7月末までに行うことになっています。よって、こちらの市長方針の評価については今年の7月末にホームページに公開をさせていただきました。また、あわせてホームページに各部課の評価、各事務事業の評価まで掲載させていただきました。

こちらは、基本的には市民の皆様の前年度の取り組みの評価について、公表をさせていただいているというものになっております。

そして、委員の皆様はこの各課の評価や各事務事業の評価についても共有を行うことで、より深い議論ができるのではというような御指摘でした

こちらに関しましては、以前は総合計画審議会で各課の評価の部分まで御報告申し上げていた時期もありましたが、相当量があり時間がかかるということで、現状は関係部長が出席し、部の方針の評価について御説明をさせていただくといったような形にさせていただいているところでございます。

2点目については、イのまとめ部分の記載は委員の御指摘のとおり、趣旨が伝わらない部分があるようですので、詳細を確認し、対応いたします。

### （意見）委員

説明内容はよくわかりました。提案ですが、例えば資料として各部課の評価等を全て載せるのはすごく膨大になると思うので、この部の評価を抜粋したものを資料として使用し、より詳しく興味のある部分についてホームページで事前にお読みいただくようお知らせするのはどうでしょうか。そうであればより細かい部分についても読む方もいらっしゃるのかなと思います。

審議を深めるためにはこのようなことも必要なのではと思います。以上です。

### （進行）会長

はい、過去の資料については私も記憶にありますが、非常に膨大なものだという事は

分かります。なので、各課の評価や各事務事業の評価に関心がある方は、こちらのホームページを御覧くださいといった紹介をされてもよかったのではないかと思います。

はい、それではそれ以外の意見や質問がある方お願いいたします。

**（意見）委員**

市と様々な団体との連携ということで、今回の総合計画審議会を含めた様々な会議や取組の案内を頂くのはありがたいが、人数が少ない団体としては申し訳ないが出席できないということもある。会員減少や高齢化などもあり出席の調整が難しくなっているのもそういった案内は早めに頂けると助かります。

**（進行）会長**

はい、案内は、早め早めということですね。はい、お願いします。

**（回答）企画政策課長**

はい、御意見ありがとうございます。様々なイベントや会議の案内については頂きました御意見のとおり、ある程度余裕を持って各団体に御案内するよう留意しながら進めてまいりたいと思います。

**（進行）会長**

よろしいですか。それでは、他に意見や質問は無いようですので議事1についての質疑はここまでといたします。

それでは、議事2「次期地方創生総合戦略の策定について」事務局から説明をお願いします。

**（説明）企画政策課長**

はい、それでは、議事2「次期地方創生総合戦略の策定について」の説明をさせていただきます。

まず、資料の1ページ目を御覧ください。策定の趣旨と背景についてです。地方における人口の急減、高齢化の進展に伴う我が国の課題解決に向け、第2次安倍内閣の看板政策として、平成26年11月に「まち・ひと・しごと仕事創生法」が公布され、同年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されて、取り組みが進められました。

この法律に基づき、都道府県、市町村においても、地方創生に向けた地方版の総合戦略の策定が努力義務とされました。滝沢市においては、平成27年10月に「滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところです。

そして、令和2年4月に第2期滝沢市総合戦略を策定し、滝沢市への新たな人の流れを生み出し、活力ある地域をつくる取り組みを進めてきました。

その後、国はこのまち・ひと・しごと創生法に基づいて、岸田政権のもと、全国どこで

## 令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

も誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指すデジタル田園都市国家構想を掲げ、デジタルの力を活用しつつ、地域の個性を生かす取組を加速化、進化させるため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、令和4年12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」と名前を変えて、改定したところであります。

そして、岩手県でも国の総合戦略に令和4年12月改定を踏まえて、昨年の令和5年12月に第2期として「岩手県ふるさと振興総合戦略」が改定されております。

滝沢市においても、現在の総合戦略の計画期間が令和6年度末で終了となることから、これまでの取り組みの成果を踏まえ、さらに国や県の総合戦略も勘案しつつ、滝沢市における新たな総合戦略の策定に向けての事務を進めているところです。

国、県、市の各総合戦略の計画期間、名称等については資料1の1ページ目の一覧表に記載しておりますので、参考までに御覧いただければと思います。

2は現行の総合戦略についてです。第2期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の内容でございます。

カッコ1として、総合戦略が目指す姿として3つの柱を掲げております。若者が安心して働ける環境づくり、子育て世代を支援する環境づくり、そして定住、転入を促進する環境づくり。これらの柱を掲げて取り組みを進めることで、幸福感を育む環境づくりを実現し、令和6年度に人口5万7,000人を達成、維持していくということで策定しております。

これは基本的に第1次の総合計画をベースにして、地方創生に関する施策を取りまとめたものになっています。

そしてカッコ2はその施策をまとめたものであり、「若い世代の新たな雇用の創出」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「人とのつながりを魅力にした定住・転入・関係人口の拡大と安心して暮らすことができる魅力的な地域の実現」という3つの政策を掲げ、それぞれに指標を設定し取組を進めてきたところです。

3の現行の総合戦略に関する進捗状況についてです。

資料2の1も御覧いただければと思いますが、指標については全部で32項目を設定しております。その中で18項目についてはこの計画期間内に数値が上昇し、うち、現時点で既に令和5年度の目標数値を達成している項目が12項目ということになります。

資料2の1の右側には、計画策定当時の基準値と現時点での実績値、そして今年度末までの目標値を記載しています。

指標については32項目と多数なので、詳細の説明については割愛させていただきますが、このように施策ごとに目標を設定して進捗状況を図っているということになります。

4の次期総合戦略の策定方針についてです。

カッコ1の策定の趣旨です。総合戦略の策定にあたっては滝沢市におけるこれまでの総合戦略に基づく取組を継承しつつ、総合戦略の基礎となる滝沢市の人口推計をまとめた人口ビジョンの改定内容を踏まえる予定です。

なお、この総合戦略は、国の地方創生推進交付金や地方創生応援税制、いわゆる企業版ふるさと納税制度の適用条件として、策定が義務付けられている形になっています。

## 令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

よって滝沢市でもこの総合戦略を策定することで、国の地方創生推進交付金の活用を検討したいと考えているところです。

カッコ2の計画期間です。計画期間は令和7年度から令和13年度までとしたいと考えています。期間については、第2次滝沢市総合計画の基本構想計画期間の最終を令和13年度までとしていますので、総合計画との整合を図るために総合戦略の周期は同様にしたいと思っています。

3ページ目を御覧ください。カッコ3総合計画と総合戦略の関係性です。

第2次滝沢市総合計画の基本計画地域全体計画の中から、地方創生に関わる施策等を体系化し、滝沢市の総合戦略として取りまとめたいと考えています。

総合戦略は総合計画における地域全体計画における部門を超えた連携により展開する分野別計画として策定し、市の総合計画と一体として、施策を推進したいと考えています。

5の国や県の総合戦略についてです。

市町村が総合戦略を策定する場合は、国及び県の総合戦略の方針を踏まえることとされています。よって国が策定しているデジタル田園都市国家構想総合戦略及び県が策定している第2期岩手県ふるさと振興総合戦略、これらの基本的な考え方を踏まえ、滝沢市の総合戦略をまとめていきたいと思っています。

国の総合戦略の基本方針と県の総合戦略の基本方針については3ページに記載の通りとなっております。

3ページの下段に記載していますが、現在、石破首相を本部長とする全閣僚で構成する新しい地方経済生活環境創生本部において、地方創生の推進について今後10年間で集中的に取り組む内容をまとめることとしています。

そして、ちょうど昨日、地方経済生活環境創生本部がまとめた指針が閣議決定されて発出されていますので、この指針も分析しながら、滝沢市の総合戦略にも活かし、まとめていこうと考えています。

4ページ目を御覧ください。6の次期総合戦略の骨子案についてです。

国から例示されている総合戦略の体系では、地域ビジョンを示すことになっています。

この点について、次期総合戦略の骨子案では、市の将来像「誰もが幸福を実感できる活力に満ちた地域」を地域ビジョンとし、総合計画に示すビジョンと同様としたいと考えています。

また、目標設定についても、第2次総合計画に掲げる人口目標5万5,500人の達成を目標とし設定し、その上で、「雇用」、「結婚・出産・子育て」、「つながり」などに関連する目標を設定して進捗を図りたいと考えています。

基本的方向の明示の部分については、次期総合戦略では、環境の変化や国、県の基本的な考え方などを踏まえて、その基本的方向性を定める予定としています。

具体施策とKPIについてです、KPIとは、資料中段に記載していますが、重要業績評価指標というもので、この指標の達成を目標に取り組むということで示すものです。

この指標については現行の「雇用」、「結婚・出産・子育て」、「つながり」の3つの施策を基本に、関連事業を体系化し、それらを踏まえ評価指標を設定したいと考えていま

す。

また、この指標は総合計画との整合性を図るため、総合計画中の部門別計画施策の指標をそのまま総合戦略でも指標として設定したいと考えています。

7の人口ビジョンの改定についてです。

先ほども説明しましたが、人口ビジョンは各自治体において、人口の現状を分析し、将来推計を行った上で、総合戦略を策定する際の参考とするため策定を求められているものです。

滝沢市でも、平成27年6月に第1期の滝沢市の総合戦略を策定するにあたり、この滝沢市人口ビジョンを策定しております。

その後、令和2年3月に、直近の国勢調査の結果に基づく人口動向を踏まえて内容を改訂しております。今回の次期総合戦略の策定にあたっては、令和2年の国勢調査結果を踏まえ、人口動向分析及び将来人口推計を新たに行って、人口ビジョンを改定する予定です。

今回改定する人口ビジョンの内容については、この後説明させていただきます。

8の次期総合戦略の策定スケジュールについてです。

本日、総合計画審議会において概要を説明させていただきました。また国の地方創生にかかる基本的な考えが昨日示されましたので、これも踏まえ、次期総合戦略の素案を策定していきたいと考えています。

令和7年の2月中にはその草案を基にパブリックコメントを実施し、令和7年の3月初めには、改めてこの総合計画審議会にお諮りして審議をいただきたいと考えています。

そして、3月末には総合計画審議会での御意見も踏まえ、次期総合戦略と人口ビジョンを策定・改定をし、令和7年度の新年度開始に合わせて、この次期総合戦略を施行したいと考えています。

資料の5ページ目には参考までに国が示す地方版の総合戦略の骨格を掲示しておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

それでは引き続き、資料2の2「滝沢市人口ビジョン案」について説明をさせていただきます。

#### （説明）事務局

資料2の2「滝沢市人口ビジョン案」につきまして、企画政策課担当から御説明を申し上げます。

こちらについては内容が多岐に渡りますので、要点の部分のみ御説明をさせていただきます。

2ページ目を御覧ください。こちらは人口動向分析で、ページ中段の表の2020年までの数値は国政調査にもとづく実績値、そしてそれ以降の2070年までの数値は国立社会保障人口問題研究所（以降「社人研」と記載する。）が示した推計値となっています。実績値、推計値を見ると令和2年の国政調査人口をピークとして、2070年には3万2,000人まで人口が減るとというのが、最新の予測ということになっています。



## 令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録（草稿）

3 ページ目を御覧ください。この推計値に基づく、年齢3区分別の人口割合は中段の図のとおりになります。高齢者1人を支える生産年齢人口割合は1.1人となるという推計が出されています。

6 ページ目を御覧ください。ここからは過去の人口がどのような状況だったかという部分のお話しになります。まずは出生数、死亡数の推移です。

滝沢市では、長らく出生数の方が死亡数を上回っている状況が続いていましたが、2017年に初めて死亡数が出生数を上回り、その後自然減が続いている状況です。2022年には、169人の自然減ということになっています。

7 ページ目を御覧ください。こちらは合計特殊出生率についてです。滝沢市の出生率は緑色のラインで示していますが、国、県に比べると滝沢市の出生率が高い状況が続いているということが分かります。ただ、2022年に国、県の修正率が下がるのにあわせ、滝沢市の出生率も下がっているという傾向が伺えます。

8 ページ目を御覧ください。こちらは転入転出の推移、いわゆる社会増減と呼ばれるものです。滝沢市では、青色の線の転入者数が多い状況が長らく続いています。

ただ、社会増減についても2022年には転出者数の方が上回る状況ということになっており、社会減が175人の社会減という状況になっています。

10 ページ目を御覧ください。転入者数から転出者数を差引し、どこの自治体に転出が多いのかというものを示しています。10 ページ目の上段右側の転出超過数内訳を見ると、仙台市、北上市、郡山市の順に転出が多いことが分かります。

12 ページ目を御覧ください。こちらは年齢階層別の移動の状況になります。

中段の図をみると青色の15歳から64歳までの生産年齢人口の方の転出が多いということが分かります。

13 ページ目を御覧ください。こちらは年齢ごとの動きをより詳しく見たものになります。図を見ると大学への入学・卒業また就職する年齢の方の転出が非常に多いという状況が分かります。

15 ページ目を御覧ください。こちらは直近10年の滝沢市における世帯構成の動向を示しているものになります。

上段の図をみると世帯数の増減等色々ございますが、表の1番右側、滝沢市における高齢者1人世帯の推移というものが示されています。これによると65歳以上の一人世帯の割合が、10年前の平成27年9月には10.7パーセントであったものが、令和6年9月には14.6パーセントということで、3.9パーセント伸びているということが分かります。

15 ページ目の下段は国が示している今後の全国世帯構成の動向です。これをみると滝沢市だけでなく国全体で今後、65歳以上の単独世帯が非常に増えるという推計であることが分かります。

16 ページ目を御覧ください。今年の夏に社人研が長期的な人口の推移を示した時に、前回の推計に比べて減少の割合が比較的緩やかになったという報告がありました。

ただ、緩やかになった要因は、外国人の人口が非常に増える想定だということでした。

そのようなこともあり、滝沢市におけるこれまでの外国人人口の推移について記載する部分を今回の改定では新たに追加したいと考えています。

国勢調査によりますと、滝沢市の外国人人口は1990年には31人でありましたが、直近の2022年には256人となっています。滝沢市でも少しずつではありますが、外国人人口が増えているということが分かります。

これらの人口動向に基づき、滝沢市の将来人口の推移を推計したものが17ページ目以降になります。

18ページ目を御覧ください。最初にお示しした社人研による推計は、自治体ごとに固有の出生率そして移動率を設定し、推計したものになっています。将来的に滝沢市の人口が2070年に3万2,000人程度になるという社人研の推計は、こちらに提示している数値に基づくものになります。

出生率が2025年に1.43であったのが2070年に1.53になり、移動率については、5歳刻みで表のとおり変動するという設定に基づいて推計を行った結果が19ページ目に再掲という形で掲載をさせていただいております図となります。

この図によると2020年をピークとして、2070年には3万2000人程度まで人口が減るということになります。

この出生率は、滝沢市は高く推計されており、全国的には1.2程度といった値となっています。この推計を踏まえると、滝沢市の出生率は今後も維持・向上させていかなければならないと考えられます。

20ページ目を御覧ください。こちらは社人研の推計に基づく単位地区ごとの人口推計となります。

具体的には22ページ、23ページの図を御覧いただければと思います。

ここまでが社人研が示している人口推計、そしてその結果を地域別に見た推計というものになります。

ここからは市独自の観点で推計をしてみた部分となります。まずは25ページ目を御覧ください。自治体の人口に与える影響として自然増減と社会増減どちらが大きいかということ进行分析したものになります。先ほどの社人研による人口推計趣味レーションに条件を二つ加えて推計を行います。25ページ目中段の表に示している通り、シミュレーションの1つ目については、先ほど1.5程度から始まった出生率を、この出生率であれば人口が減らないという数値である人口置換水準2.1の出生率が続くものとした推計です。2つ目のシミュレーションは今申し上げた条件に加え、人口の社会的な移動も全くない状況を推計したものになります。

その結果については26ページ目を御覧ください。下段に図で青いラインが社人研の推計、赤いラインが出生率を人口置換水準である2.1に設定した場合、緑のラインがそれに加え人口の社会増減が0という条件を加えたものになります。

この図で示したいのは、滝沢市にとって人口減少というのは、自然増減、社会増減、どちらの影響が大きいのかということですが、人口減少に与える影響度は自然増減、社会増減共に3の中程度ということになります。

改定前の現行の人口ビジョンでは、自然増減の影響度は3で、社会増減の影響度は1で、自然増減の影響度の方が大きいということになっていましたが、最初に御説明いたしましたとおり転入者数が減ってきているという現況も踏まえると、自然増減、社会増減共に影響を受ける自治体になってきているのだと推察されます。

これら人口の減少が地域の将来に与える影響という部分について、27、28ページ目に記載をしております。地域経済への影響、福祉・介護への影響、地域公共交通への影響、市の行財政への影響と様々な影響が見込まれます。

これに対し、滝沢市としてどのような施策や人口目標を設定するかという部分が29ページ目以降になります。滝沢市民の皆様への意向調査結果と、また国の調査結果等も様々提示をさせていただいております。特にこの中で御説明申し上げたいのは、31ページについてです。こちらは出産・子育てに対する考えについての国の調査結果です。この調査によると現在結婚している夫婦への質問への回答として、予定している子どもの人数が平均で1.75人という結果となっています。

ただ、様々な条件をクリアした場合の希望する理想の子ども的人数は平均で2.15人という結果となっていますので、ここに0.4人程度の差が出ているということが分かります。この差を埋める政策、施策が必要なのではないかということ滝沢市では考えているところです。

32ページ目についてです。ページ上部に図は国の調査結果になりますが理想の子ども的人数を実現できない1番の原因として、子育てや教育にお金がかかりすぎるということが上がっています。

また、ページ下部の図は滝沢市が実施した子育てに関するアンケート調査結果であります。こちらについても医療費・保健保育料・教育費など子育ての経済的負担が軽減できる環境を希望するといった結果が出ています。

33ページ目からは、滝沢市の目指すべき将来の方向性を人動動向分析やアンケート調査結果を踏まえ、分析した内容となります。

人口動向分析からは、現在高齢者1人を支える生産年齢人口が2.4人となっていますが、2070年には高齢者1人を1.1人で支える形となること。

また、転出超過数の上位は、仙台市・北上市・郡山市となること。さらに、年代で見るとやはり大学から卒業、就職する年代の転出超過が非常に大きい形となることが分かります。

将来人口推計からは、2020年をピークに人口が減少に転じ、この減少に対する影響の度合いというのは、自然増減・社会増減ともに同程度大きく影響しているということが分かります。

アンケートの結果からは、現在予定している子ども的人数は理想の子ども的人数を下回る状態であるということが分かります。

よって自然減対策として、ページ下段に記載の通り、結婚・出産・子育て希望の実現に向けた経済的支援や周囲の理解の促進や高齢者が生きがいを持ち、生き生きと暮らすための環境づくりに取り組むこと、社会減対策として、多様な働く場の創出、魅力ある社会環

境の整備や若者が地域を知ることによる愛着の向上に取り組むことが必要でないかと考えています。

34ページ目を御覧ください。こちらには今後、滝沢市が目指すべき将来の方向性として、4項目を記載しています。

1つ目として「自分らしい子育てが実現できる環境づくり」、2つ目として「定住・転入を促す環境づくり」、3つ目として「市への愛着の醸成と若者が活躍できる環境づくり」、4つ目として「高齢者が生きがいを持ち、生き生きと暮らす環境づくり」。

この4つに取り組むことが市の目指すべき将来の方向性ではないかと考えています。

そして、この4つの視点に基づく取組を進める前提での市の人口の展望です。

先ほどの社人研が示している、出生率と移動率の数値を様々な政策・施策を講じる前提で、上向くことを想定しシミュレーションを行うのが34ページ目下部からになります。

出生率については、ここ10年は社人研の推計から0.05ポイントのプラス、その後は0.1ポイント分のプラスとします。

34ページ下部を御覧いただければと思いますが、移動率については赤色の部分は4ポイント、その前後の世代は3ポイント、さらに、その前後の世代については2ポイント、向上させています。高齢者の世代についても、地域で生き生きと暮らしていただき、最後まで住み慣れた地域で暮らしていただく施策を進めることを前提に1ポイントの向上を見込んでいるという内容となっています。

36ページ目からはこちらの数値に基づいた推計の結果となります。

滝沢市で独自に設定した出生率と移動率により推計すると、2030年までは現在の人口を維持しつつ、その後の減少幅も緩やかになるといった人口推計となります。

最終的に2070年でも4万3,000人を超える人口になるということで、社人研の推計値と比べると、1万1,000人ほど多い人口をなんとか達成できることとなります。

人口減少は避けられない状況にあるとは思いますが、その幅を少しでも緩やかにしたいと考えています。

現在、滝沢市で検討している人口ビジョン案の説明につきましては、以上となります。

#### （進行）会長

はい、ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局の説明について御質問、それから、すぐに素案の作成に入ることですので、素案作成にあたっての御意見などをお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

#### （意見）委員

資料2についてですが、こちらの次期地方創生総合戦略の中には高齢者福祉という文言が1つもないようですがこれでいいのでしょうか。

#### （進行）会長

はい。高齢者福祉という文言、視点が入っていないのではということですね。はい、どうぞ。

**（回答）事務局**

ありがとうございます。滝沢市の基本的なまちづくりは総合計画に基づいて行うことになっています。この総合計画には高齢者の皆様に向けた施策や視点というものも記載されています。ただし、国でも地方創生総合戦略については、地方にまずは仕事を作り、若い世代、特に若い女性が東京などの首都圏へ流出するという流れを変えるということが主眼になっています。ただ、昨日、国から示された新しい地方経済・生活環境創生総本部の決定の中では、今までの地方創生と違い若い世代だけではなく高齢者等も安心して住み続けられる地方を構築しましょうということが打ち出されたところです。

滝沢市でもこのような流れを踏まえ、人口ビジョンが示す4つの柱の1つに「高齢者も住みやすい」という視点を加えてはどうかと考えています。

今までは若い世代の部分が主でしたが、今後は、高齢者がいつまでも住みなれたところで暮らし続けられる環境という部分も踏まえ、計画を策定したいと考えているところです。

**（進行）会長**

当然、素案の方にもそういう視点・観点が入ってくるということですね。

**（回答）市長**

補足になりますが、先日、自衛隊の退職者を対象にバスの運転手の講習会を実施しました。これは公共交通を維持し、仕事を提供するための取組です。東北防衛局の協力を得て、自衛隊の退職者が地域の公共交通の担い手となるよう促しています。公共交通は市民生活にとって非常に重要であり、地域の生活と仕事を支えるために、これからもさまざまな観点から対応していきたいと考えています。この取り組みが将来の人口減少の歯止めにもつながると期待しています。

**（意見）委員**

まだまだ私も子育て世代に該当するのではと思いますが、子育てに関するアンケートの中では、1個人としての自分の現状だけと言いますか、要は1個人としての今の状態、環境、そういったものを反映しているようなアンケート結果に見受けられます。

結局子どもを育てるのは親なので、その親にもまだ援助していただきたいというふうな気持ちがあります。おじいちゃん、おばあちゃんにも一緒になって子どもの面倒を見てもらえれば、より多くの子どもを育てる環境ができるのではないかと思います。そのためにも、やはりおじいちゃん、おばあちゃんにも健康でいていただくことが大切だと思います。

親になってからも援助していただけるような環境があれば、人口減少のスピードも落と

せるのではないかと思います。総合戦略には言葉としてそういった部分を付け加えていただければよろしいのかと思います。

**（回答）企画政策課長**

国の方でもこれまでは若者と子育て世代に特化した取組を地方創生の中で推進してきましたが、その第1期の課題や反省も踏まえて、昨日発表された指針の中では、高齢者の活躍であるとか生き生きとした生活、生きる環境づくりというのを記載しておりますので、もう人口減少に対しては、どの世代ということではなく全ての世代で連携して取り組まなければならないということになっています。今、委員からいただいた御意見も踏まえながら、次期総合戦略の高齢者施策の部分について検討していきたいと考えています。

**（回答）市長**

補足ですが、石破大臣が人口減少や出生率の低下について答弁した際、出生率が2.8の町の例を挙げました。その町の出生率が上昇した成功要因を熊本大学の専門家が分析しており、我々もその意見を参考にさせていただいています。核家族化の影響や地域力の重要性についても学んでおり、特に高齢者の方たちに子どもたちを見守ってもらえる環境、そういったものを作っていくことが給食費や教育費にお金をかけるよりも、効果的に子どもを産み育てやすい環境となる効果的な対策とされています。つまり地域の力を活かし、高齢者が生きがいを感じながら地域貢献できる環境作りを進めることが重要だと考えています。

**（進行）会長**

よろしいですか。委員の御意見がきちんと素案に反映されるということですので、次回の審議で確認していただければと思います。

関連する御発言はありますか。ないようですので他の観点・視点でも結構ですので何かありますでしょうか。

**（意見）委員**

盛岡広域振興局で企画推進課長をしています吉原と申します。

日ごろから滝沢市並びに市民の皆さんには、県並びに振興局の施策の推進に御協力賜りまして、御礼申し上げます。

今回の総合戦略策定に当たっての人口ビジョンでは自然減対策、社会減対策をしっかり行い、人口規模を一定に維持していくということが読みとれると感じています。

武田市長の御挨拶では、滝沢市は市内に大学が複数あり、いわゆる若い力を得て、それをどう生かしていくかというようなお話とお聞きしました。

この件について今年の夏、振興局の合同庁舎で行われた滝沢市から県への要望活動でも武田市長から御紹介をいただいたところです。

具体的には昨年度の取組ですが、地元の大学生、さらには卒業された方、滝沢市出身の

方と県外で懇談されているいろいろな御意見いただいたというような事例も御紹介いただいたところですが

この件については、要望当日、達増知事からも実にすばらしい取組なので、県でも参考にさせていただきたいというお言葉をいただきました。

実は振興局でも同じように、盛岡広域出身の若者の方々と、県外で懇談会をやろうということになっています。滝沢市さんにはこういったすばらしい取組を御紹介いただいて、感謝しております。総合戦略に基づき若者が多いといった強みを生かした取組を継続していただければと思います。

#### （進行）会長

はい、それでは市長どうぞ。

#### （回答）市長

ありがとうございます。まずは先ほど冒頭で話しました新しい価値の創造については岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、それから矢巾町の産業技術短期大学校と様々連携・協同し取り組むことになっております。

今後、岩手県立大学の前にある IPU イノベーションセンター及びパークの隣の県有地を今後取得させていただき、そこに新たな工業団地を作っていく。これまでイノベーションセンター及びパークには全体で28社の企業の皆さんに進出していただきました。

これまでは IT 関連の企業の皆様を集めることに集中してきましたが、今後は、これまでに第1章と考えた時に、第2章としてどういった企業の皆さんを呼び込めるか。

まずは関係するいろんな職種の方々が入ってこられる環境を作り、IT 関連にうまく親和性のある企業の皆さんを呼び込みたいと思っています。

きっかけとなったのは、やはり東京で開催した若い人たちとの会話です。その中で、やはり岩手山が見える場所に仕事を作ってくださいというふうに若い方々から言われたということがあります。今後は県と一緒に新しいイノベーションや動きを作っていくことがこれからの岩手の価値創造につながるのではないかと考えています。

ぜひ今後も、県と歩調を合わせながら、取り組んでまいりたいと思っておりますので、これからも御指導頂戴できればと思っております。

#### （意見）委員

ありがとうございます。武田市長さんのお言葉はそのとおりだと思います。本当に、岩手山や鞍掛山に抱かれた、優しいまちに住みたいという人たちがたくさん増えて、住み続けられる、そういったことの実現につながる総合戦略となるよう御祈念申し上げたいと思います。

#### （進行）会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか？

**（意見）委員**

資料2の2の27ページに記載の地域経済への影響については全くこの通りだと思います。人口が全てとは言わないが経済活動をするのは人ですから、今1番労働力不足が深刻で、やはり人口減については閉塞感を感じる。

産業の分野ではこの閉塞感が非常に強くなっている。その要因としてやはり人口減というのもあるが滝沢市の場合、ずっと人口が増えてきたのがこの頃止まってしまった。そして出生率の話もでてきましたが若い方々が本当に減っている。

今回の独自推計はおそらく滝沢だからできる予測なのかなと思います。例えば県北とか沿岸では到底こういう推計は出てこないと思います。この滝沢市の推計は実現することは非常に難しい数字だと思いますが、希望を持った数字として実現できるような何とか協力したいと思います。

また、資料16ページについてですが、やはり産業界とすれば、本当に日本人だけでは回らない状況です。市内に外国人が増えているのは確かで、その国籍もどんどん多様化しています。以前はベトナム、ミャンマー辺りが1番多かった。しかし今はラオス、カンボジア、インドなど多くの国から来るようになっている。

ただ今後、おそらく円安傾向はまだ続くので、日本に来る外国人の方はおそらく少なくなるのではないかと考えています。

しかし、外国人を雇う場合、日本人を雇用するよりお金がかかることもあるのでその辺も考えなければいけないと思っています。

まずは市のこの人口計画が実現できるように、我々としても協力していきたいと思っています。

**（進行）会長**

はい。激励という色合いが強い御発言だったかと思います。どうぞ市長。

**（回答）市長**

ありがとうございます。私もなるべく工業クラブの会合には出るようにしています。

その中で、つなぎの小中学校の跡地に新たに外国人の方々を呼んで、語学教育などを行い就労につなげる話がありました。

ただ、先日秋田の方から聞いたお話しだと、日本人を雇うより外国の方を雇うほうが費用負担が大きいと伺いました。要は、住居の準備や雇用環境・就業環境の整備にお金がかかると。

しかし、それでも働いていただくことが必要なのだというような話をされていました。

まずは人出不足に悩む会社の方々の支援として、我々に何ができるのか、経営者の皆さんの話を聞くことで支援の方向性を見出せるのではと思っています。

そのような困りごとを聞く体制をとりながら、今動かなければ、この人口減少、あるいは経済活動、雇用の確保の対策は行えないと考えています。



あわせていつも思っていますが、滝沢市だけが一人勝ちするのではなく、やはり盛岡広域として力をつけなければいけないと思っています。

**（進行）会長**

はい。他にいかがでしょうか。

**（意見）委員**

1点質問となりますが、資料2の2で用いているアンケート調査の件で、2019年の就職、定住・移住に関するアンケート調査について、このアンケートの調査対象はどういう方なのかお伺いしたいです。

**（回答）事務局**

こちらは大学生を対象にアンケートを取ったものになります。

**（意見）委員**

なぜこの件を伺ったかという点、おそらくこのアンケートでは、多分将来的に滝沢市に住みますかどうかというのを伺っているのだと思いますが、実際はいろんな事情でポジティブに滝沢市を選択して住んでいる人と、いろんな事情が重なり滝沢市に結果的に住んでいる人という点だと思います。若い人の中で滝沢市を選んで住んでいる人も当然いるわけです。そういう人たちがなぜ滝沢市を選んでいるのか。今住んでいる若い人は、どうして滝沢市に住んでいるのかということが分かるような調査を行えば、ひょっとしたら滝沢市でも気づいていないような潜在的なアピールポイントがわかるのかと思います。

今後、何かアンケート調査をする時は、質問項目にそういった点を踏まえていただく、あるいは自由記述でそういったことが分かるような質問項目を入れていただくといいのかなと思います。

**（進行）会長**

はい。今後の調査手法についての御提言を含めた御意見かと思っています。

**（回答）事務局**

はい、御提言いただきましてありがとうございます。先ほどのアンケートに関するお答えに足りない部分がありました。申し訳ございませんでした。

アンケートをお願いした方は、滝沢市内外に通学する専門学生及び大学生ということで、盛岡の専門学校や、岩手大学、そして盛岡大学の学生の皆さん、合計で728人から回答いただいたというものです。

先生からいただいた御意見は全くそのとおりだと思いますので、より深い分析ができるように次回アンケートをとる際はぜひ参考とさせていただきたいと思っています。ありがとうございます。

**（意見）委員**

日常的に学生と関わる中で、将来はこういうところに住みたいとか、こういう仕事をしたいという理想を描いて語る学生が多いです。しかし、実際に仕事をしてどこに住むのかということは現実的な問題になるので、実際に滝沢市に住んで仕事をしている若い人の意見は、学生の意見とはちょっと違うのではと思いますので、ぜひ御検討いただきたいです。ありがとうございます。

**（進行）会長**

よろしいですかね。他、いかがでしょうか。

それでは、御質問、御意見出尽くしたようですので、これで議事2「次期地方創生総合戦略の策定について」を終了いたします。

それでは、本日予定されておりました全ての議事が終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

**（進行）事務局**

はい。会長、議事進行ありがとうございました。

それでは最後に、その他ということで、皆様の方から何かございましたら御発言いただければと思います。

特になしということでよろしいでしょうか。それでは、事務局から1点御連絡をさせていただきます。

先に配布しておりました1枚ものの資料「滝沢市総合計画審議会の開催概要」を御覧いただければと思います。

次回の第3回の総合計画審議会につきましては、3月の初旬を予定しております。

日程については、ただ今調整中でございますので、決まり次第、皆様に御案内を差し上げたいと思います。

議題といたしましては、令和6年度の地域社会アンケートの結果についてと次期地方創生総合戦略の策定についてということで、本日頂きました意見も踏まえて、最終的な総合戦略の内容について改めて説明をさせていただきます。

それでは、これもちまして令和6年度第2回滝沢市総合計画審議会を閉会いたします。大変ありがとうございました。